

2019年度 施策マネジメントシート【2018年度実績評価】

作成: 2019年 6月 13日

施策番号 2-2-2	施策名 地域資源を活用した観光の振興	基本目標 豊かな自然を生かした活力ある農業のまちづくり 政策名 農業と連携した活力ある商工観光の振興
主管課 施策関係課	商工観光課	課長名 紺野 裕 内線 411

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果	
観光スポットの認知度向上を図るとともに、地域資源である「農業」や「食」「景観」などを活かした観光振興をすすめます。			町外観光客 観光資源(観光 スポット)	・地域資源を活かした観光が図られる ・観光スポットが認知される ・観光による経済効果の拡大が図られる			・茅室町が道内・国内・海外に発信される ・交流人口の増で消費の拡大につながる	
成果指標		説明	単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標	
① 芽室町への観光入込客数	十勝総合振興局まとめ	人/年	204,100	198,800	201,100	216,700		
② 芽室町観光物産協会ホームページアクセス数	観光物産協会調査	件/月	3,000	1,800	1,600	4,000		
③ 新嵐山スカイパーク利用者数	商工観光課調べ	人/年	506,400	488,100	384,800	518,000		
成果指標 設定の考え方	①観光の振興するための目安となる成果指標に設定 ②観光のPRを図るうえで必要な成果指標に設定 ③本町最大の観光地である新嵐山スカイパークを振興するため成果指標に設定							

2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費(千円)	167,712	189,718
人工数(業務量)	1.6988	1.6208

3. 施策の達成状況

(1)施策の達成度とその考察			
①2018年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	平成30年度は降雪が極端に少なく、新嵐山スキー場の来場者が前年対比で102,300人(リフト乗降客数)減少したのが主な要因である。
②第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	・観光入込客数は天候によって大きく左右されるが、町外の方々にとって、着地型観光としての地域資源を活用した魅力ある観光まちづくりが必要とされている。 ・協会ホームページアクセス数については、年々減少傾向にあり、今年度、H24年HP開設以来のリニューアルを行い、更なる観光PRを行う。 ・新嵐山スカイパークは、本町最大の観光地であるが施設の老朽化などにより、宿泊稼働率は低調である。今後は経営可能な運営の在り方を検証し、効果的・効率的な施設整備を進めることが必要である。

(2)施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括

①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	ふるさと納税特典贈呈事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業
	新嵐山スカイパーク運営支援事業	
	芽室町観光物産協会運営支援事業	
	発祥の地杯ゲートボール大会開催支援事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)		・町外に向け芽室町をPRすることが観光の振興にとって最大の戦略である。 ・新嵐山スカイパークは冬期間はスキー場として、また、年間を通じては帯広の隣接町として高校生を対象とした合宿地として道外にも浸透し始めており、発祥の地杯GB大会では「芽室町」が発祥の地として確固たる地位を築いている。 ・ふるさと納税返礼品により、本町の特産品を選定・発送し、新たな魅力発信につながっており、安定したPR活動がなされていたが、H30年度のふるさと納税新制度に移行により寄付額が減少してきており、新たな取り組みが必要とされている。

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した
				○		
※該当に○印						

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	団体旅行が減少し、インターネットによる観光情報の入手が容易になり、多様化する個人ニーズに合致した観光メニューの多様化が求められ、また、滞在型・体験型観光のニーズの高まりを受け、芽室町を「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、経営戦略を実施するための調整機能を備えた法人「芽室版DMO」が必要とされる。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	<ul style="list-style-type: none"> ・新嵐山スカイパークの今後の方向性 ・国民宿舎新嵐山荘の老朽化 ・サイクリルツーリズムの事業展開 ・ふるさと納税寄付額の減少

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)

①課題 観光物産協会に対する支援・連携強化
地域資源を活かした観光・物産振興を推進する組織である観光物産協会への組織強化に対する支援を行うとともに連携を深め、収益につながる事業展開等、観光地経営に向け取り組む必要がある。
②課題 地域資源を活用した観光まちづくりの推進
本町ならではの食と景観などの地域資源を活かしながら、芽室町独自の観光メニューと体験プログラムを開発し魅力発信を進めるとともに、発祥の地であるゲートボールを活用したまちづくりを進める。 多様化する観光客ニーズや外国人観光客に対応するため、観光案内拠点の充実を図る。
③課題 新嵐山スカイパークの利用促進
新嵐山スカイパークの利用促進を図るため、適切な施設管理・施設整備を行うとともに、運営については、これまでの多角経営を検証しながら、官民協働の視点を活かした取り組みを進める。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	ふるさと納税やサイクリルツーリズムの取組など、新たな事業による観光振興を進めており、策定時と比較して前進したと評価する。	A	B	C	D	E
進捗結果			○			
今後の取組に対する意見	各関係団体との連携を強化し取り進めていってもらいたい。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	さまざまな取組を行っているが、指標を見ても平成30年度時点では成果が出ているとはいえず、計画策定時と比較して変わらないと評価する。	A	B	C	D	E
進捗結果			○			
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・町外に対してのPRにも観光物産協会は重要である。 ・ふるさと納税、サイクリルツーリズム、嵐山の取組など今後に期待できる取組も始まっており、成果が出るよう進めてほしい。 	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した				